

共栄学園短期大学・住居学科小史

The Brief History of Housing Studies Department,
Kyoei Gakuen Junior College

六反田 千 恵
Chie Rokutanda

要約

共栄学園短期大学住居学科は、2005年3月に第20回目の卒業生を送り出した。住居学科の20年間を、1) 生活学科住居学専攻時代：家政学の基盤の上の住居学（1984－93）、2) 改組・住居学科2ルート制時代：建築ルート＋インテリアルート（1994－2001）、3) カリキュラム改訂・住居学科3ルート制時代：建築＋インテリア＋福祉住環境（2002－2005）の3期に分けて、カリキュラムと教育内容の変遷を辿る。住居学科データ集やカリキュラム改訂資料のほか、各年毎の学生作品集や学科パンフレットなどを基本資料としている。さらに、住居学科に関する諸データの中から、入学者数の動向、入学志望動機分析、卒業後の進路について分析を加え、住居学科の最近の動向を補足している。

キーワード：住居学科、ルート制、建築、インテリア、福祉住環境、カリキュラム、設計製図作品集、CAD作品集

目次

- 1 はじめに
- 2 生活学科住居学専攻（1984 - 1993）
 - 2-1 カリキュラム構成について
 - 2-2 設計製図作品集
- 3 住居学科2ルート制（1994年度改組 - 2001）
 - 3-1 改組の背景
 - 3-2 建築ルートとインテリアルート
 - 3-3 設計製図作品集
 - 3-4 CAD作品集
- 4 住居学科3ルート制（2002年度カリキュラム改訂 - 2005）
 - 4-1 カリキュラム改訂の背景
 - 4-2 福祉住環境ルートの意義
 - 4-3 2002年度カリキュラム改訂補足：通年科目の半期化と必修科目の削減
- 5 住居学科データ抜粋
 - 5-1 入学者数の動向
 - 5-2 入学志望動機
 - 5-3 進路
 - 1) 就職
 - 2) 編入学
- 6 結び

1 はじめに

1984年の共栄学園短期大学開学時に設置された住居学科は昨春（2005年3月）に、その前身である生活学科・住居学専攻時代から数えて、20回目の卒業生を社会に送りだした。2005年早春はカリキュラム改訂を検討していたこともあって、数年ぶりに住居学科に関するデータ集『共栄学園短期大学住居学科データ集2004年度版』¹も再編集し、新たに入学者の志望動機などに関するデータや首都圏の家政系大学のカリキュラムの動向などを『2005年度住居学科カリキュラム改訂に関するレポート』²にまとめた。その他、20年の間に12冊の製図作品集³と6冊のCAD作品集⁴、学科独自のパンフレット⁵を数種類作成してきている。これらの資料等をもとに当時の学生たちの様子や学科での議論などをスケッチ風に差し挟みながら、満20歳となった住居学科の変遷を振り返ってみたい。

1984年共栄学園短期大学に「生活学科・住居学専攻」が設置され、ちょうど10年目

を迎えた 1994 年度に改組して「住居学科」となり、その後数次のカリキュラム改訂を重ねながら現在の住居学科に至る。この 1994 年度の改組は大きな転機であった。家政学系の衣食に関する科目がなくなって住居学に特化したカリキュラム構成となり、それまで卒業後 1 年間の実務経験がなければ取得できなかった 2 級建築士受験資格が卒業後 0 年でとれるようになった。同時に建築ルートとインテリアルートが設置されて 2 ルート制となっている。インテリア設計室やインテリア照明室が新たに設置され、教育環境も充実した。CAD 教育が本格的に実施されるようになったのもこの前後である。著者が研究助手として住居学科に着任したのはまさにこの節目の 1994 年で、いわば住居学科の第 1 期生と一緒に「入学」したことになる。

次に大きな転機となったのは、福祉住環境ルートを新設し、現行の 3 ルート制になった 2002 年である。ただし、ルート制では 2 年次になってから各ルートに分化するので、実質的な福祉住環境ルートの運営は 2002 年度の入学者が 2 年次を迎える 2003 年度からになる。改組に際してのインテリアルートの設置とは条件が異なり、カリキュラム改訂によるルート新設であったため、選択必修科目の設置や社会福祉学科との共通開講科目の設置などを行ったが、福祉住環境ルートのための教育環境整備はまだ今後の課題である。今年度（2005 年度）は福祉住環境ルートのための実習室（名称未定）の設置を進めているところで、これを皮切りに少しずつ整備していく予定である。

来年度（2006 年度）からはこれまでのルート制に替わって履修モデルコース制のカリキュラムが始まる。インテリア、建築、福祉住環境の 3 ルートは、それぞれインテリアデザインコース、リフォーム・建築デザインコース、福祉住環境コースに名称が変わり、1 年次から自分の興味のある分野の選択必修科目の履修が可能になる。その他、各コースに目標資格を設定し、資格受験対策ゼミを新設した。これまではほとんど授業外のオプションとして奨励していた資格取得を、本格的にカリキュラムの一部として組み入れていることが大きな特色である。このカリキュラム改訂も今後の住居学科のあり方にインパクトを与えるひとつの転換点になるであろう。

以上が住居学科の変遷のおおまかな流れである。（図 1 参照）

2 生活学科住居学専攻（1984 - 1993）

2-1 カリキュラム構成について

開学当時のカリキュラム構成を見ると、「生活学科共通科目」が必修 32 単位の内 16 単位を占め、「住居学専攻科目」の必修 16 単位と同じウェイトを占めている。生活学科共通科目の代表的な科目としては「生活論」「保健衛生学」「食品学概論」「被服学概論」などがあり、いわゆる家政学系の科目が多くを占めていた。これらの科目のほとんどは 1994

【図1：住居学科年表】

年度	昭和・平成 西暦	59	60	61	62	63	1	2	3	4	5	6	7	8	
		1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	
カリキュラム別 入学者	▼作品集 ◆CAD作品集	1	2	3	4	5▼(1年生)	6	7▼(1年生)	8	9	10	11	12	13	
		【生活学科・住居学専攻】										【住居学科：2ルート制】			
		【共栄学園短期大学開学】													
		生活学科・住居学専攻										住居学科2ルート制(建			
		2級建築士受験資格(卒業後1年)										【改組】生活学科→住居			
												2級建築士受験資格(卒			
		・家政学的構成										・家政学系科目なくなり、			
		・専門科目48単位(必修32単位)										・専門科目51単位(必修			
		・一部に選択必修科目を設置										・ゼミ制開始			
関連資格等	色彩								●AFT色彩検定創設		●AFT色彩検定文部省認 ●AFT色彩検定				
	CAD								◆CAD教育開始(DRA-CAD)		◆CAD室設置→CAD教育本格化				
	IC	★IC創設(1983)										★インテリア設計室・イ ★インテリア系科目設置			
	HJC														
	MRM								▲MRM創設						

年の改組の際に廃止されている。

これに対して住居学専攻科目には「住生活学」「住居史」「室内意匠」「基礎意匠学」「住居設計製図Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」「デッサン」など、多少名称や授業形式が変わっても現在に至るまで継続している住居学科の基幹科目が含まれている。

開学以来、いくつかの選択必修科目への指定変更や「集合住宅論」「建築法規」「施工学」「環境衛生学」などの工学系・建築系科目の増設を経つつも、生活学科共通科目+住居学専攻科目というカリキュラムの基本構成は住居学専攻期の10年間にわたってゆるやかに維持されていた。

この時期で注目されるのは「設計図書演習」が1991年に設置されていることである。この科目はコンピュータで図面を描く、いわゆるCAD(Computer Aided Design)の演習科目で、当時の家政系短期大学としてはかなり早い設置だったと思われる。

2-2 設計製図作品集

1988年にはおそらく住居学科で初めての学生作品集が作成されている。『自然の中に建

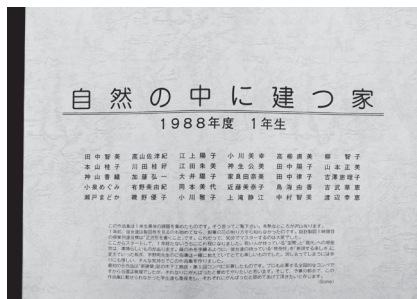
9 1997	10 1998	11 1999	12 2000	13 2001	14 2002	15 2003	16 2004	17 2005	18 2006	19 2007
					19	▼			23 (予定)	
						20	▼			
▼◆							21	▽ (製作中)		
14	◆							22		
	15	◆								
		16	▼◆							
			17	▼◆						
				18	▼◆					
					【3ルート制】				【履修モデルコース制】	
築ルート+インテリアルート) 学科+社会福祉学科へ 0年)					住居学科3ルート制 【カリキュラム改訂】 福祉住環境ルート設置			住居学科履修モデル制 【カリキュラム改訂】 履修モデル3コース		
住居学専門科目構成ができる 28単位) ・海外研修単位化					・通年科目をなくし、すべて半期科目とする ・基礎教養課程改訂→専門科目55単位 (必修22単位) ・専門科目55単位 (必修29単位) …一度減らした必修を元に戻す ・各コースに資格対策ゼミ設置					
定 校内実施始める										
◆VectorWorks導入					◆Auto-CAD導入 ◆VectorWorks操作技術技能保持者認定試験					
インテリア照明室設置					★IC年齢制限撤去・IC検定試験支援開始 ★「インテリアCAD」設置					
■HJC3級検定創設					■福祉住環境系科目設置 ■「福祉と住環境」基礎教養科目として開設					
					▲MRM受験資格年齢制限撤去					

略語凡例：
 CAD：Computer Aided Design
 IC：インテリア・コーディネーター
 HJC：福祉住環境コーディネーター
 MRM：マンションリフォームマネージャー

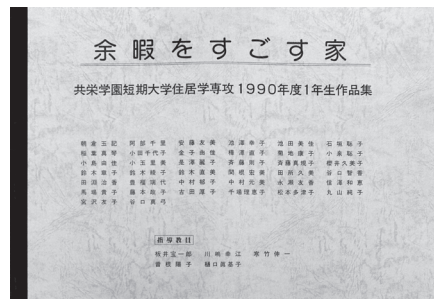
つ家—1988年度1年生』(図2)、つづいて『余暇を過ごす家—共栄学園短期大学住居学専攻1990年度1年生作品集』(図3)と隔年でまとめられた冊子が今でも残っている。各々A3サイズ30ページ余の青焼き図面を綴じた素朴なものだが、当時の学生たちと講師陣の熱気が伝わってくるようである(図4)。

その後少し間をおいて1993年に『1993年度卒業設計優秀作品集—共栄学園短期大学生活学科住居学専攻』が作成されている。こちらはA4サイズ横綴じで縮小コピー製本であるが、10作品を収録し、約120ページの力作である(図5、図6、図7)。

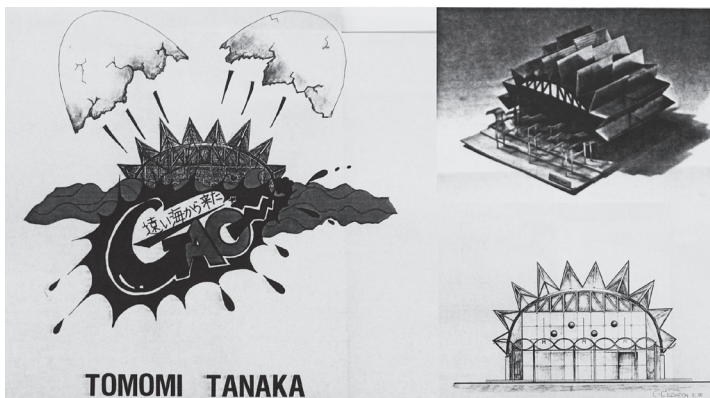
生活学科住居学専攻の最後の作品集は『共栄学園短期大学住居学科優秀作品集1994年度』としてまとめられている。すでに改組を終えて住居学科となっていたのであるが、まだ生活学科住居学専攻の最終学年の学生たちが二年次に残っており、この学生達が夏休みに自主的に前期の設計製図Ⅱ課題作品(「理想住宅」)に手を入れて学外コンペに応募した作品と、卒業設計が収録されている。A4サイズ30ページ余の小冊子であるが、はじめてのカラー作品集である。インキングや色鉛筆・カラートーンによる着彩などプレゼンテーション技術が洗練されてきている様子が見られる。(図8～12)



【図2：1988年度作品集】第5期生作品収録



【図3：1990年度作品集】第7期生作品収録



【図4：1988年度作品集収録作品】

『遠い海から来たGAO〜』住宅を一匹の怪獣のように見立てて、誕生から海を越えて生きる場所を得るまでのストーリーをプレゼンテーションしている。「自然の中に建つ」という課題の枠組みを超えて、自由にイメージーションを広げていく勢いが感じられる作品である。

3 住居学科2ルート制（1994年度改組－2001）

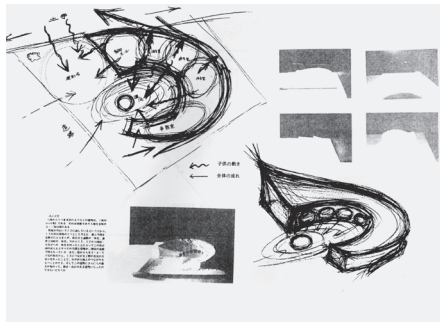
3-1 改組の背景

設置10年目の改組によって生活学科は住居学科と社会福祉学科に分かれた。この改組は、共栄学園短期大学全体で見ても受験者数が増加して入試倍率も高くなっていき、学生たちの就職も軌道に乗っていくなど、いわば上昇気流のなかで行われたように見える。しかし、着任直後の著者には奇異に思えたほど、当時の学科内の議論には危機感があった。「今後加速度的に進行していく少子化・18歳人口の減少という社会的潮流に対してどのように魅力的な教育環境をつくっていくのか」、「短期大学の2年間という限られた時間の中で専門教育を充実するにはどうしたらいいのか」、「四年制大学への移行は」など、短大全体の将来を考える議論の中から生まれてきた改組であった。改組前後のカリキュラム構成や学科内の議論を振り返りながら、この改組が目指していた住居学科の方向性について考えてみたい。

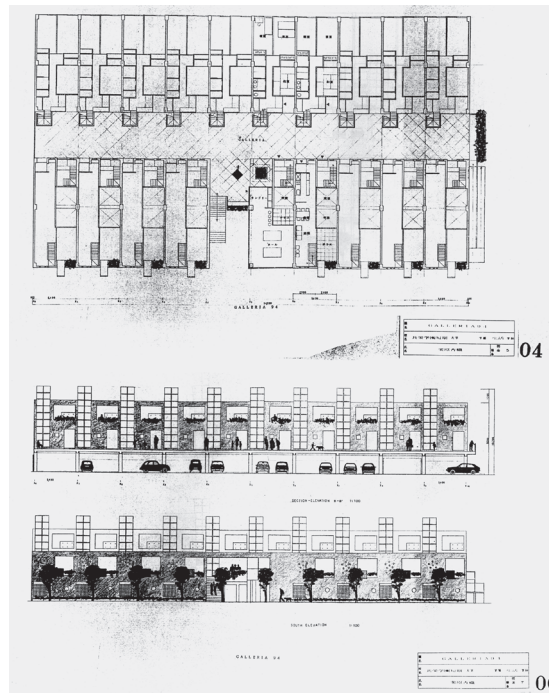
まずカリキュラム構成上の変化として、生活学科共通科目+住居学専攻科目という基本構成がなくなり、「食品学概論」「被服学概論」「栄養学」といったいわゆる家政系の科目のほとんどが一斉に廃止となった。かわりに新しく「インテリア史」「インテリアエレメント」「インテリア計画論」といったインテリア系の科目を設置している。先に述べたように建築系・工学系の科目は改組の数年前から段階的に設置されていたので、1994年改組時点



【図 5：1993 年度作品集】第 9 期生作品収録



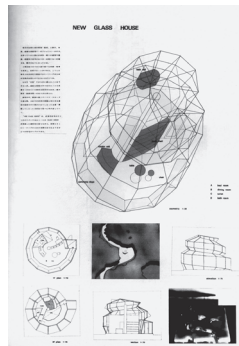
【図 6：1993 年度作品集収録作品】
『NEST』力強いコンセプトスケッチ。



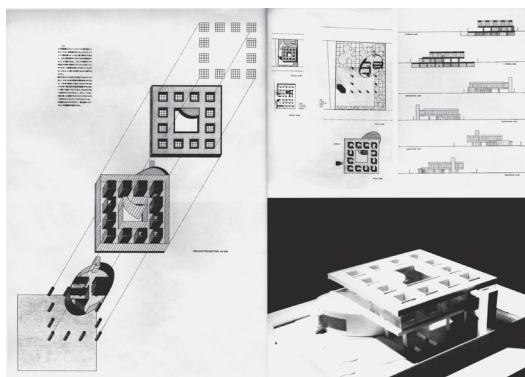
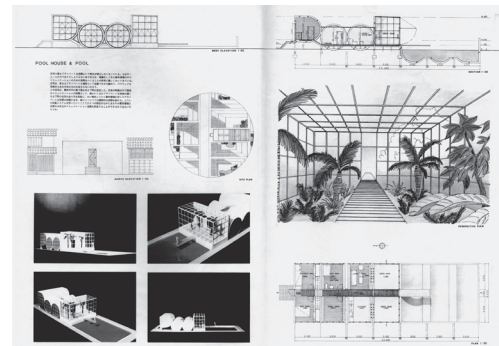
【図 7：1993 年度作品集収録作品】
『GALLERIA 94』非常に洗練された低層集合住宅のデザイン。



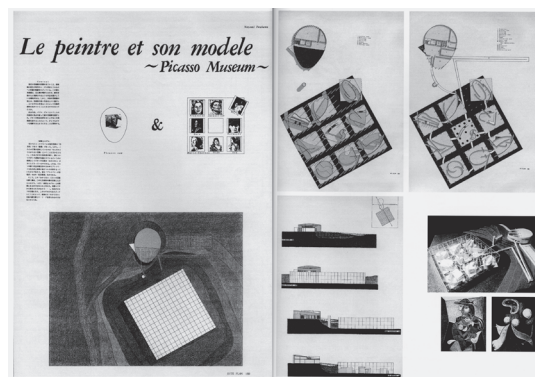
【図 8：1994 年度作品集】
第 10 期生作品集。生活学科住居学専攻の最後学年。



【図 9（上）、図 10（右上）：1994 年度作品集収録作品】
図9:『NEW GLASS HOUSE』、図10:『POOL HOUSE & POOL』設計製図2「理想住宅」課題作品。



【図 11：1994 年度作品集収録作品】
『12』卒業設計作品。小さな 12 の空中展示室をもつ都市型美術館。インキング、色鉛筆仕上。



【図 12：1994 年度作品集収録作品】
『ピカソ美術館』卒業設計作品。それぞれの展示空間はモデルとなった女性たちのイメージをデザインしている。インキング、色鉛筆仕上。

では目立った動きはない。この改組をにらんでかなりの準備期間があったことが伺われる。結果、改組後の住居学科専門科目は3単位プラスの51単位（必修28単位）となったが、従来の生活学科共通科目を含まないので、専門必修科目のほぼ半分が入れ替わったことになる。

この1994年の改組の要点は、建築工学系の科目を設置することで2級建築士受験資格卒業0年を実現したこと、家政学から一步踏み出した住居学科としてカリキュラム構成を専門特化させて住居学のための専門教育機関となったこと、将来的なニーズに応えるべくインテリア科目を設置して2ルート制としたことの3点である。2ルート制については次でもう少し詳しくみていくことにする。

3-2 建築ルートとインテリアルート

1994年改組の大きな特色として2ルート制を敷いたことがあげられる。これには当時の社会背景を考える必要がある。当時既に少子化の進行に伴う入学者の多様化と質の変化や入学者数の減少が予測されており、住居学科としても日進月歩の建設分野で通用するより高度な専門教育への先鋭化を進めると同時にインテリア等の関連分野へ視野を広げていくことが必要であるとの認識が底流にあった。建築ルートでは建設分野でのより高度な専門性を求める学生のニーズに応え、インテリアルートではより幅広く学びたい学生のニーズに応える、というルート毎の役割への期待があったのである。

ルート制の概要は、1年次は共通基盤となる基本的なトレーニングや知識の習得を行い、2年次になってから各自の志向性に合わせてルートを選ぶというものである。ルート毎に異なるのは必修科目あるいは選択必修科目の構成と設計製図Ⅱ（2年前期）・設計製図Ⅲ（2年後期）の課題内容、CAD関連科目の内容である。住居学科としてのカリキュラムが完成年度を迎えた1995年度カリキュラム構成では、建築ルート必修科目「施工学」「構造計画論Ⅱ」「設計図書演習」、インテリアルート必修科目「インテリア計画論」「基礎デザインⅡ」となっている。その後必修科目を極力減らした2001年度のカリキュラムでは建築ルート選択必修科目「集合住宅論」「建築法規」「施工学」「設備学」、インテリアルート選択必修科目「インテリア史」「インテリアエレメント」「インテリア計画論」「インテリア文化論」となっている。

しかし、ルート毎の必修・選択必修科目の両方にまたがって履修する学生も多かった。特に2級建築士受験を想定しているインテリアルートの学生たちは、建築ルートの必修・選択必修科目を併せて履修することが多い。それぞれのルートの特色が最も出ていたのは設計製図とCAD科目であった。建築ルートには美術館・社会福祉施設・集合住宅などの設計課題が含まれ、インテリアルートは有名住宅の改修や展示空間のデザインなどが含まれていた。また、建築ルートは設置当初からCAD関連科目を必修指定する等CAD教育

に重点を置き、2003年頃から設計製図とCADが一体化した内容となった。個人差を無視して大雑把に言えば、建築ルートの学生たちは設計製図・CAD関連の演習実習科目に力点を置いて、インテリアルートの学生たちは建築系科目も履修する等幅広く知識を得ることに力点を置いて2年次を過ごすというのが全体的な傾向であった。

2ルート制が始まってからの数年間は、学生達の様子からみたルートによる違いはそれほど大きくなかった。特に調整する必要もなく両ルートにほぼ均等に学生達の希望が分かれた。インテリアルートには新しく開設したインテリア設計室があったが、少し手狭だったこともあってか、授業時間外の作業や夏休みの自主コンペなどはルートに関係なく学生たちが参加し、3階製図室で一緒に作業していたのである。当時の卒業設計を見てもテーマはあまりルートに関係なく、インテリアルートの学生たちが建築的なテーマを選ぶことも多かった（後出：図16）。

しかし、1997年をピークとして98年より入学者数が減りはじめた頃から、様相は徐々に変わってきた。それまでは半々程度に分かれていた学生たちの希望がインテリアルートに集まりはじめ、1999年・2000年と臨時定員枠の縮小とほぼ平行する形で入学者が減少していった第16期生（1999年入学）からは、約6～7割の学生たちがインテリアルートを希望するようになったのである。最も建築ルートの希望者が少なかったのは定員を大きく割って最低の入学者数を記録した第18期生（2001年入学）で、約8割の学生がインテリアルートを希望し、大きくルート間の均衡が崩れたのであった。2ルート制期は、両ルートのバランスがとれていた前半期（1994－1998年）とバランスが崩れていった後半期（1999－2002年）に大きく分かれている。その後、福祉住環境ルートを設置した2002年から入学者数が徐々に定員を回復、この3年ほどは大雑把に見るとインテリア5割、建築3割、福祉住環境2割前後に落ち着いている。

3－3 設計製図作品集

建築関連分野の大学・専門学校の教育成果は学生作品集の内容や設計競技（コンペと略称される）における学生の入賞実績等で計られることが多い。多くの建築・住居系教育機関がそれぞれに学生作品集を出版したり学生作品展を実施しており、卒業設計になると学校単位に限らず、都道府県単位や日本建築学会主催の全国規模展まで数多くの展覧会が毎年開催されている。学生向けの設計競技も国際規模のものからメーカー独自の素材の使い方や照明器具のデザイン提案を求めるものまで、毎年さまざまなコンペが開催されている。

建築関連分野の専門教育において設計製図科目に特別な位置付けが与えられるのは、図面の読み描き能力が一般社会における「国語」のようにコミュニケーション能力の基礎になるという技術的な問題のためだけではない。何よりもそれが建築学に関する唯一無比の総合科目であるという点に尽きる。

建築学には理工学系の要素はもちろん、芸術的な要素、社会学・生活学的な要素も分ち難く含まれている。いわば理系・文系・芸術系のすべての要素を含む。住居学も生活学的な要素がより多くのウェイトを占めるとはいえ、まったく同じ事情にある。世界的に見れば建築教育はエンジニアリングとデザインが別々の教育機関によって担われるのが一般的で、ひとつの「建築学科」という器でエンジニアとデザイナーの両方を養成するという日本の教育システムはむしろ例外的であり、それぞれの長短をめぐって議論は建築士資格のあり方にまで拡大している。それというのもあまりにも広汎な領域にまで建築学が及んでいるからなのである。

学生の設計課題ひとつとっても、構造や設備・構法に関する理解から社会・人間・生活様式に関する分析や歴史的事例の研究、人間工学を基盤においた計画学、意匠論・色彩学など各種の専門科目の知識が総動員される。その他、直観的にイメージを捉え3次元空間に膨らませ、それらを図面や模型として表現する技術、スケジュールの自己管理、毎週の授業での担当教員とのディスカッションを充実させるコミュニケーション能力などが要求される。いわばあらゆる種類の知識と能力を総動員する実践的な総合科目として設計製図が位置しており、ここから生み出される学生作品が教育成果のバロメーターとなる。

住居学科でも設計製図に力点を置いた実践的教育を重視してきた。2ルート制の9年間(1994 - 2002年)に「共栄学園住居学科優秀作品集」または「共栄学園短期大学住居学科設計課題・演習科目作品集」と名付けた学生作品集を合計6冊(96、97、98、00、01、02年版)作成している(図13～44ただし2003年版の卒業設計も含む)。その他、住居学科単独卒業設計展(1994 - 98年)の他、日本建築学会卒業設計展(少なくとも1994年以降)、インテリア学会の学生作品展覧会(参加年不明)、埼玉県内大学卒業設計コンクール(2001年以降)などの学外の学生作品展覧会に参加出品してきた。学生作品とそれを生み出した設計製図の運営体制を振り返ることはそのまま学科の教育内容の検証となる。

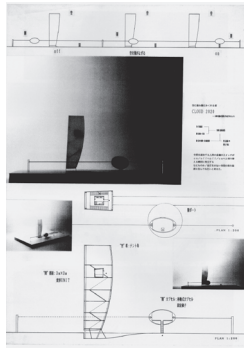
1994年頃から意欲のある学生たちには主に夏休みを使って学外でのコンペや展覧会等に応募するように奨励している。自分の課題作品をコンペにあわせて練り直したり、まったく新しい作品を制作したりとやり方は様々だったが、有志学生たちが夏休みに学校に集まって作業をしては遊びにも行き、一種のサークル活動のような活気が生まれていた。

こうした活気の中から1995年度は「2020年の家」⁶(主催:日本女子大学有志、審査員:妹島和世)で優秀賞1名、佳作2名が出ている(図14、15)。さらに、1996年は京都西陣で開催された「第2回建築アンデパンダン展」⁷に4名の学生が出品(図18)、同じく96年に「住まいの達人コンテスト」⁸(審査員:山本理顕、高橋公子ほか)で建設大臣賞を受賞している(図19)。

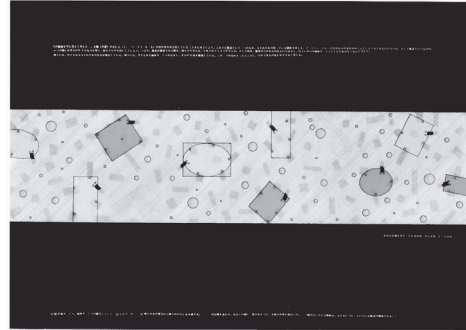
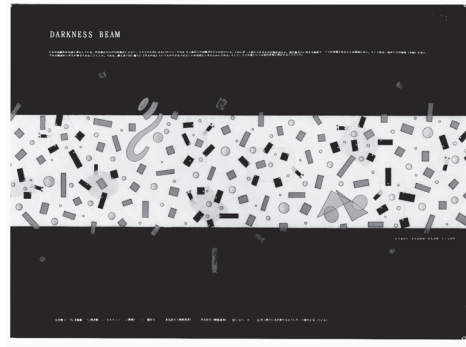
また、特に建築ルートでは設計事務所へオープンデスクに行くよう奨励しはじめた。いわゆるJIA(日本建築士会)主催のオープンデスク制度では短大生はなかなか入り込めない



【図 13：1996 年作品集】
住居学科となって最初の作品集。第 11 期生の作品を収録



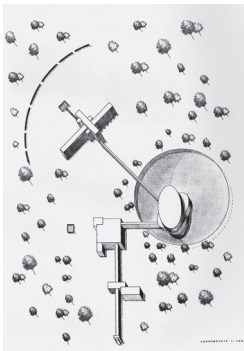
【図 14：1996 年作品集】
「2020 年の家」佳作入選。



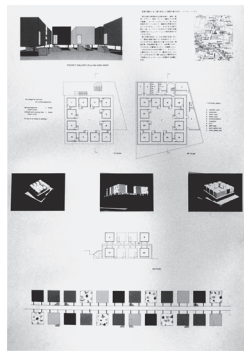
【図 15：1996 年作品集】
「2020 年の家」優秀賞。都市の中の分散型社会福祉サービスの提案。

【図 16：1996 年作品集】

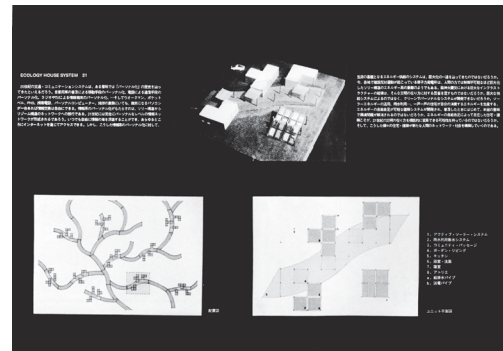
インテリアート卒業設計 1 位作品。森の中の礼拝堂と修道院。2 ルート制の初めての卒業設計であるが、設計テーマはルートを超えてそれぞれの自由に任されている。



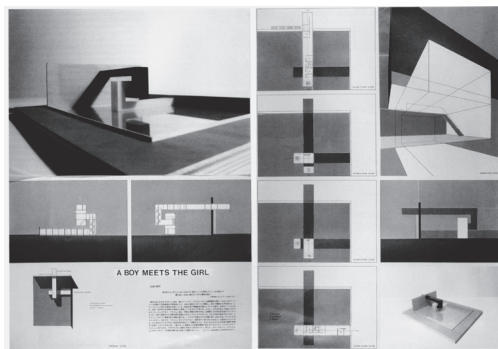
【図 17：1997 年作品集】
第 12 期生作品収録



【図 18：1997 年作品集】
建築アンデパンダン展出品

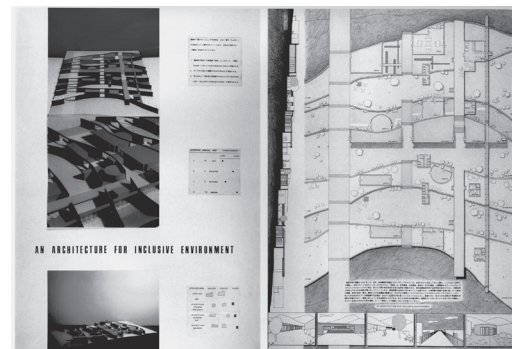


【図 19：1997 年作品集】「ECOLOGY HOUSE SYSTEM21」『住まいの達人コンペ』建設大臣賞



【図 20、21：1997 年作品集】

「A BOY MEETS THE GIRL」、「AN ARCHITECTURE FOR INCLUSIVE ENVIRONMENT」建築ルート設計製図Ⅱ「理想住宅」「美術館」課題作品に手直しを加え、学外コンペに応募している。





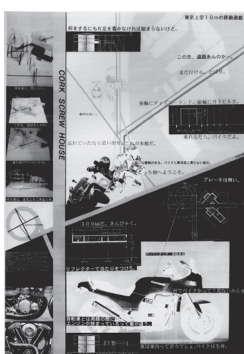
【図22：1998年作品集】

13期生の作品を収録。この作品集から、自宅の改修計画等インテリアート独自のカラーがはっきりと出てきている。



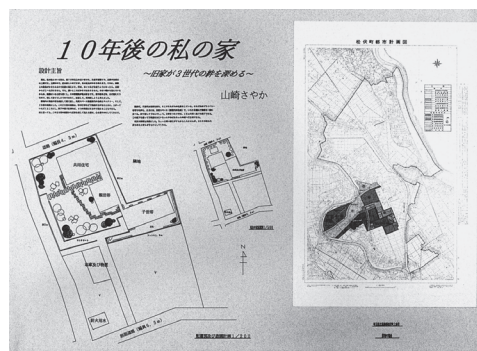
【図23：1998年作品集】

製図Ⅱ建築「理想住宅」作品



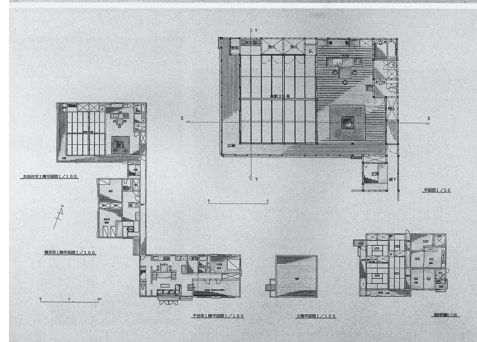
【図24：1998年作品集】

製図Ⅱ建築ルート「理想住宅」作品。



【図25：1998年作品集】

インテリアート卒業設計1位作品。自宅改築の提案。



ため、希望者には学科から紹介したり、地域の設計事務所を探して飛び込みで押し掛けたりと、授業外・学外での自主的な取り組みがかなり増加した。

住居学科の学生作品が学外のコンペティションなどに入選したり、自主的にオープンデスクに行く学生が相当数いたり、住居学科としての活動が最もアグレッシブだったのは、2ルート制前半期の5年間（1994－98）である。この前半期に12の学外の設計競技のべ36名の学生が応募し、先述したように合計4名の入賞者をだしている。一方で13期生（1996年入学）くらいから、インテリアートも水回り空間の詳細なデザインや電気設備等の配線図・展開図・透視図に力点を置いた設計課題が成熟してきて、卒業設計にも自宅の改修（図25）などの独自色を生み出している。小規模な住宅を家族構成の変化に応じて拡大していく設計製図Ⅱ「小住宅」の課題での工夫やインテリアエレメントなどの選択必修科目の充実等のひとつずつの積み重ねの成果であろう。2ルート制前半期は両ルートの特色がほぼ設置目的に沿った形で伸びていった時期だといえる。

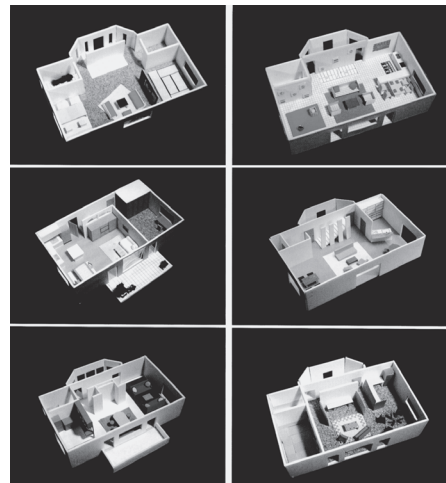
2年次の設計製図も、建築ルートは「理想住宅」「美術館」「集合住宅」「社会福祉施設」「卒業設計」、インテリアートの課題は「有名住宅改修」（のちに「小住宅設計」に変更）「展示空間」「卒業設計」と独自の課題構成になっている。住居学科の第2回入学生（12期生）が2年になった1996年からコンペに出品したりオープンデスクに行ったりするのは建築ルート、住宅設計を基盤においてきめ細かいインテリアデザインを提案するのインテ



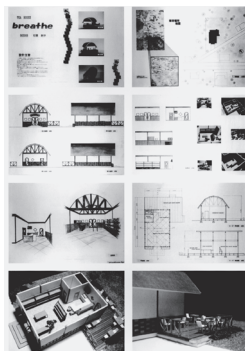
【図 26：2000 年作品集】
14 期生・15 期生の卒業設計と 16 期生の卒業設計を除く作品が収録されている。インテリアアートでは、家具制作やカフェ等の内装計画に力を入れた作品が出てきている。



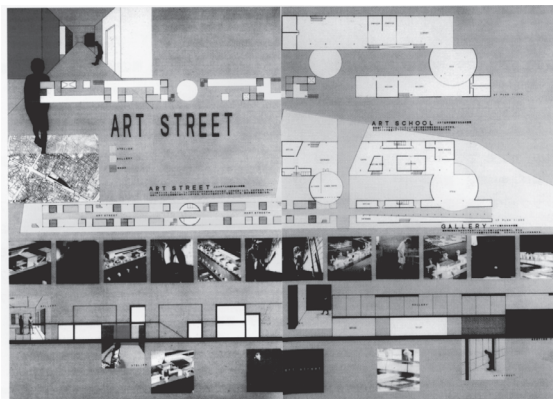
【図 27：2000 年作品集】
インテリアアート第 15 期生卒業制作。家具制作。



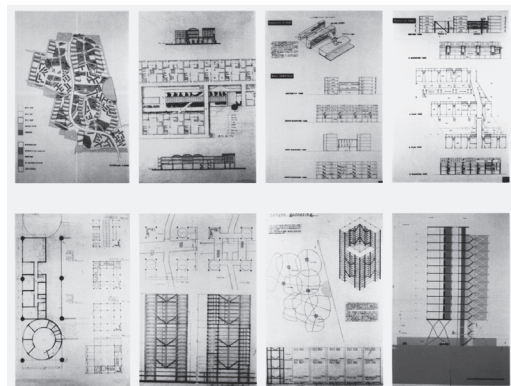
【図 29：2000 年作品集】
インテリアアート設計製図Ⅱ「小住宅」。家族の規模と並行して徐々に住宅を拡大していく課題の模型作品。16 期生の作品である。



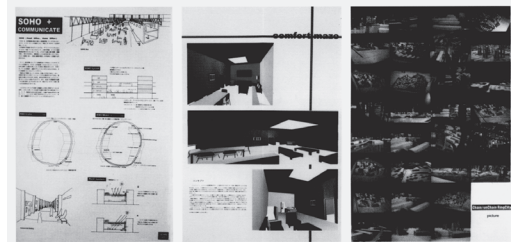
【図 28：2000 年作品集】
インテリアアート第 15 期生卒業設計。内装に民家風のディテールを取り入れたカフェの提案。



【図 30：2000 年作品集】
建築ルート第 14 期生卒業設計作品。
原宿同潤会アパート敷地に商業＋公共の場を提案。



【図 31：2000 年作品集】
建築ルート第 15 期生卒業設計作品。春日部市内武里団地を SOHO 型集合住宅としてリニューアルする提案。

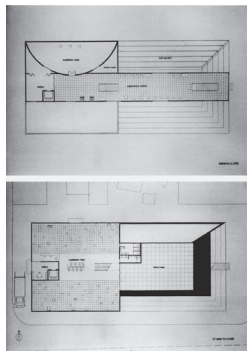


リアルートという特色が定着していった。卒業設計にも家具制作や店舗内装デザイン等のインテリアアートならではの新しいテーマが生まれてきている。

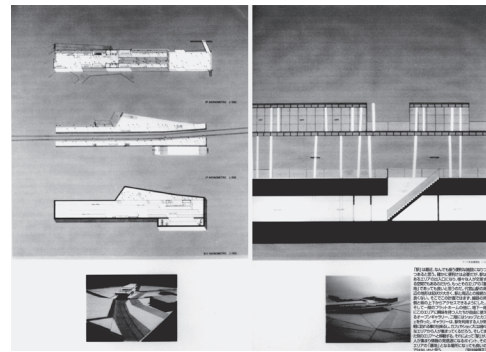
1998 年（第 15 期生）からは学生数自体が減少し始め、それと連動するように 2 ルート制後半期（1999 - 2002 年：15 ~ 18 期生）には学科運営も大きな影響を受けていった。イ



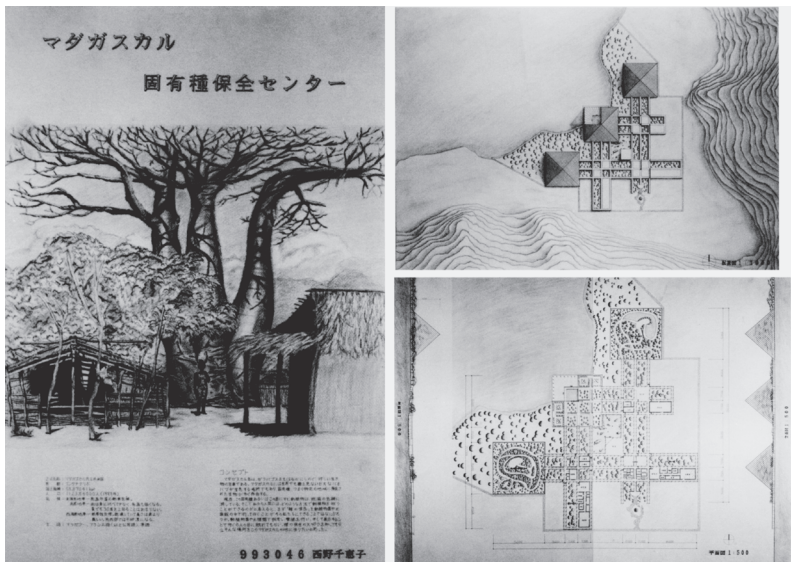
【図 32：2001 年作品集】
第16期生卒業設計と第17期生の卒業設計以外の作品を収録。



【図 33：2001 年作品集】
インテリアルート卒業設計。



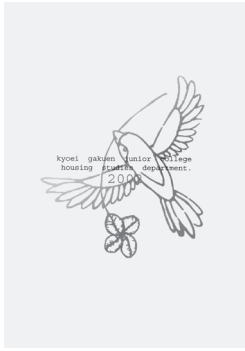
【図 34：2001 年作品集】
建築ルート卒業設計作品。代官山駅計画。



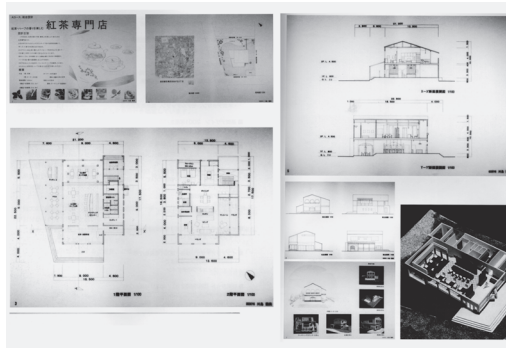
【図 35：2001 年作品集】
建築ルート卒業設計作品。マダガスカルの貴重な動植物を守る施設の詩的提案。

インテリアルート希望者が徐々に増え、建築ルート学生数が減少していった。学外コンペに出品する学生もいなくなり、2ルート制後半期に学外で評価を得たのは、2002年度卒業設計作品（2ルート制最後の卒業設計）が埼玉県内大学卒業設計コンクールで優秀賞を得たのが唯一の例外である。この後半期における学生たちの作品にも個々には優れたものがあるのだが、学科全体としてはルートの別を問わず年々ビハインド（提出期限に遅れること）作品が多くなり、完成度の高い作品の数が減少していく凋落傾向が見られた。

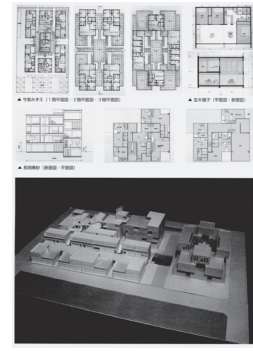
やや脇道に逸れるが補足的に製図以外の面にも触れておく。実は設計製図での現象は、その他の講義科目やゼミ形式で行う卒業論文（特別研究・卒業研究）にもそのまま現れている。出席率が低下したり試験で不可となる学生が増え、授業内容や運営方法に新たな工夫をこらす必要が出てきた。2001年には通年科目をすべて半期化してよりきめ細かい学生対応を可能にすると同時に、必修科目を最小に押さえて学生の選択自由度が高くなるようにカリキュラム改訂を行っている（必修科目の削減は却って裏目に出たため、2004年度に一部を必修科目に戻すことになったが）。その他、1年生の基本製図をバックアップする木造建築



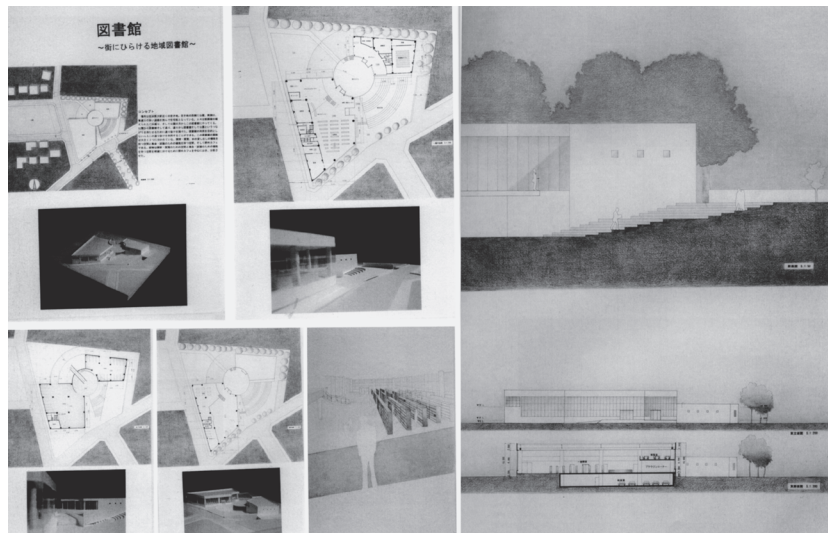
【図 36：2002 年作品集】
第 17 期生卒業設計と 2 ルート制最後の第 18 期生の卒業設計以外の作品を収録。



【図 37：2002 年作品集】
インテリアルート卒業設計。紅茶専門店。



【図 38：2002 年作品集】
建築ルート設計製図Ⅲ「集合住宅」共同設計作品。



【図 39：2002 年作品集】
建築ルート卒業設計作品。
地域密着型図書館の提案。

論（1997 年）、1 年生対応の住居学概論（1998 年）を新設している。

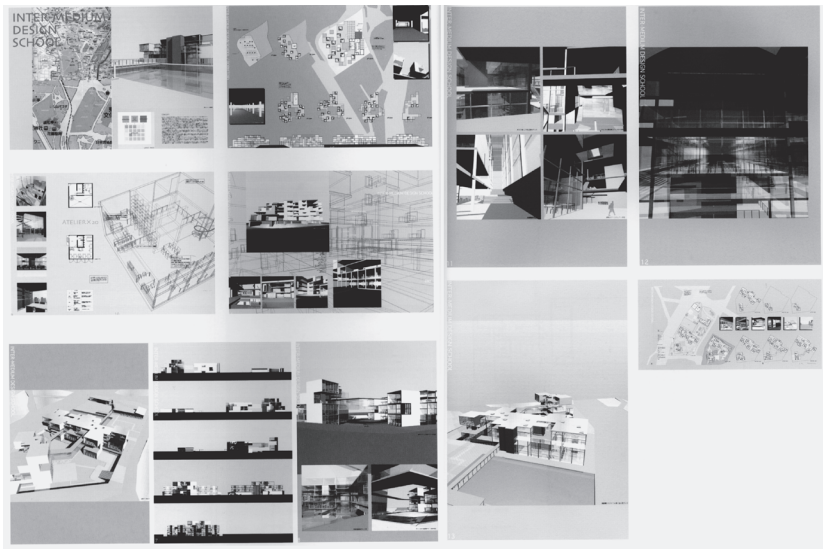
設計製図 I（1 年次通年必修）はついに 2000 年に提出日に作品が 2、3 点しか集まらず、講評会が開けないほどになった。翌 2001 年に基本製図（1 年次前期）と設計製図 I（1 年次後期）に分割して後期の課題内容を刷新し、翌 2002 年には実態に合わせて時間数を増加したことなどから出席率が回復しビハインドも 1～2 割程度に収まるようになった。

設計製図 II（2 年次前期）・III（2 年次後期、2001 年に卒業設計に改名）については、2 ルート制の最終学年まではなんとか持ちこたえたものの、学生数の減少に伴って非常勤講師が削減され、各ルートともに提出管理などの授業運営に苦慮していたが、凋落傾向に歯止めのかかる気配は無かった。専門化と多様化を狙った 2 ルート制は、それぞれにあまりにも両極化しすぎ、接点を失っていったのである。

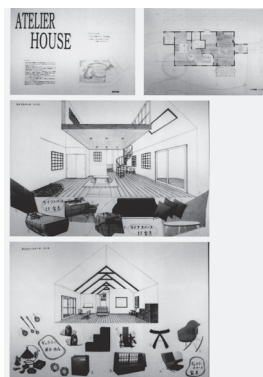
こうした状況に対して 2002 年に後述する 3 ルート制へと切り替えていくことになるのだが、特に運営に苦慮していた「卒業設計」を選択必修科目とし、「卒業研究」とあわせてゼミ単位でよりきめ細かく運営する体制をつくり、ゼミ担当教員と相談をしながら卒業論



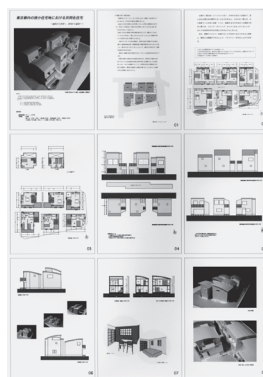
【図40：2003年作品集】
2ルート制最後の第18期卒業設計と3ルート制第1回入学生である第19期生の卒業設計以外の作品を収録。



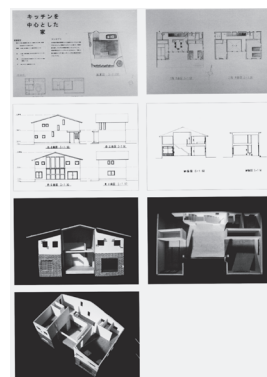
【図41：2003年作品集】 建築ルート卒業設計作品。上野の森のアトリエ制デザイン学校の提案。埼玉県内大学卒業設計コンクールで優秀賞（2位）になった。



【図42：2003年作品集】
インテリアルート設計製図Ⅱ。



【図43：2003年作品集】
建築ルート設計製図Ⅱ。



【図44：2003年作品集】
福祉住環境ルート設計製図Ⅱ。

文か卒業設計か学生各自の志向性に合わせて選択可能とした。が、先回りして述べてしまうと、結局この改革は裏目に出て2003年（ゼミ制卒業設計の第1回目）には課題の完成を求めることすら難しくなるという最悪の結果を招いた。2年次の前半・後半でルート制からゼミ制への円滑な切り替えが課題となっている。2004年には卒業設計を必修科目に戻したが十分な効果は得られておらず、2006年履修モデルコース制からはコース毎に運営する予定になっている。2年次の設計製図は2004年から回復の兆しはあるものの、特にゼミ制で行う卒業設計の本格的な立て直しは今後になる。

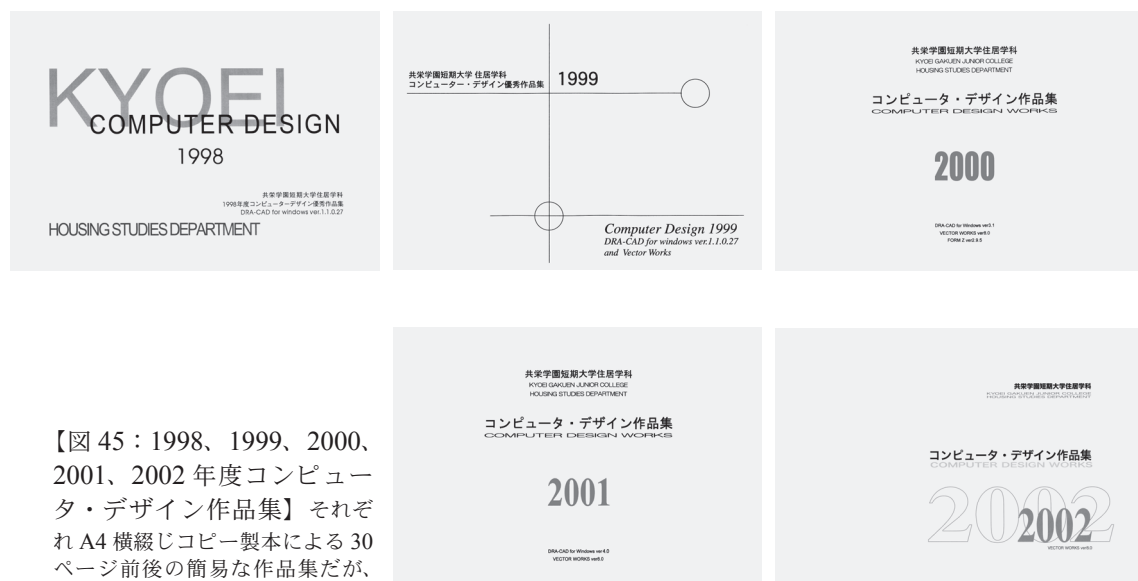
3-4 CAD 作品集

すでにCAD教育は1991年に始まっていたが、1993年に住居学科専用のCAD室が設置されて本格的な段階に入っていた。当時使用していたアプリケーションはDRA-

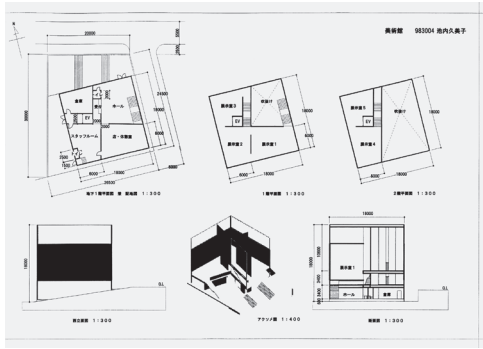
CADであった。1994年当時は集合住宅の住棟配置図や外構植栽計画図などをCADで入力するほか、テキストの模範図をトレースするような授業内容であった。しかし、1997年頃より自分自身の課題作品の入力をはじめ、椅子の3Dデザインやインテリアパースの作成など実用的な段階に入っていく、CAD作品集を作成しはじめている（図45。ただし97年のCAD作品集は現存していない）。CAD教育に関しては、使用アプリケーションや設備環境の整備により多く影響を受けるので、改組やカリキュラム改訂で区切られる3期とは別にここでまとめて述べる。

CAD教育の一つの転機となったのは、2000年のVector Worksの導入である（1999年に一部の有志学生が実験的にVector Worksを使いはじめている）。建設業界でのシェアは2割前後とそれほど高くないが、その2.5次元CADといわれる特性からインテリア関連のデザイン事務所や住宅を主として手掛けているアトリエ系設計事務所での使用が多く、また学生作品のプレゼンテーションにも便利なことから、従来のDRA-CADと並行して授業で用いることになった。2ルート制設置当初はCAD教育は建築ルートを対象としていたので、Vector Worksを導入することによってインテリアルートにもCAD教育のチャンスを拡大するのが大きな狙いであった。インテリアルートの学生たちのCAD教育へのニーズも徐々に増加し、2004年には「インテリアCAD」としてVector Worksを用いたインテリアルート向けのCAD科目を新設することになった（他ルートの学生も履修可能）。

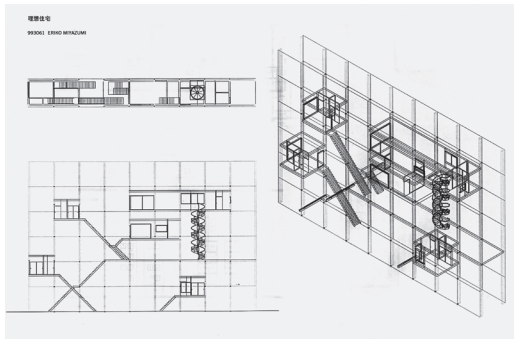
2000年度より第一コンピュータ室ではDRA-CAD、住居学科専用CAD室（履修制限により最大15名まで）ではVector Worksの授業を行うようになった。また、CADを扱えることが専門職の最低条件となりつつあった建設業界の動向に合わせ、2002年から建築ルートでは設計製図とCADの授業が完全に連動するようになっている。



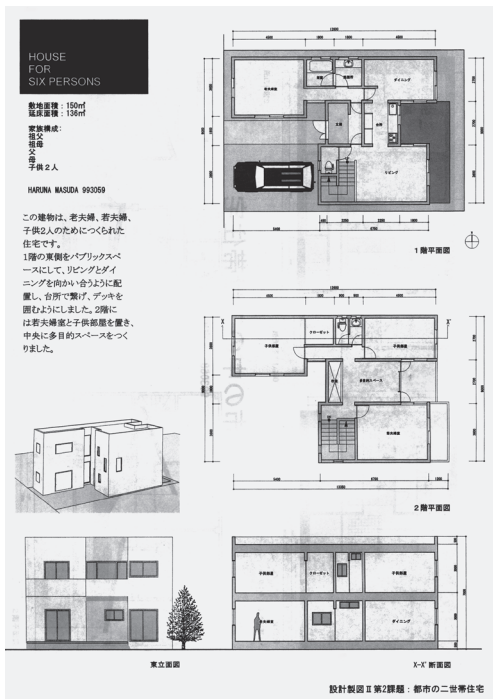
【図45：1998、1999、2000、2001、2002年度コンピュータ・デザイン作品集】それぞれA4横綴じコピー製本による30ページ前後の簡易な作品集だが、一部カラーページもある。



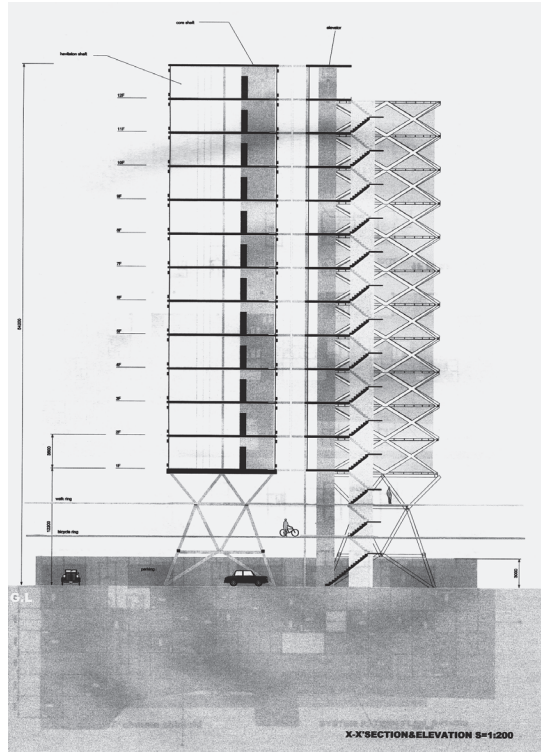
【図46：1999年度作品】「美術館」建築ルート設計製図Ⅱ課題のVector Worksによる2D/3D入力。



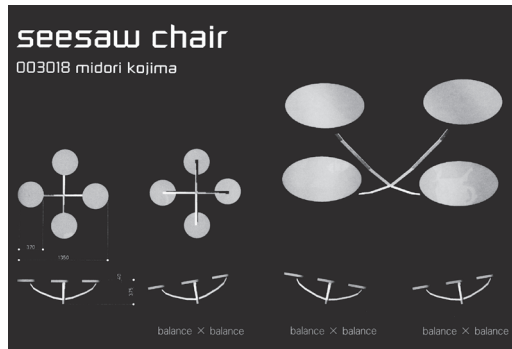
【図48：2000年度作品】「理想住宅」建築ルート設計製図Ⅱ課題のVector Worksによる2D/3D入力。



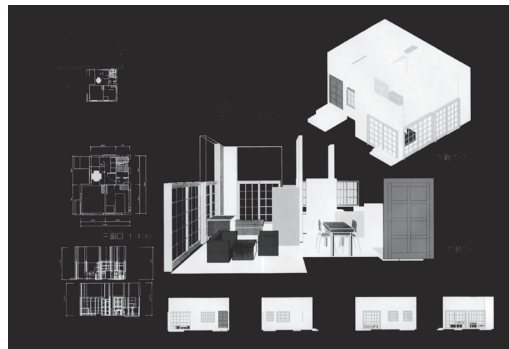
【図49：2000年度作品】「HOUSE FOR SIX PERSONS」建築ルート設計製図Ⅱ課題のVector Worksによる2D/3D入力。プレゼンテーションとしても完成度が上がってきている。



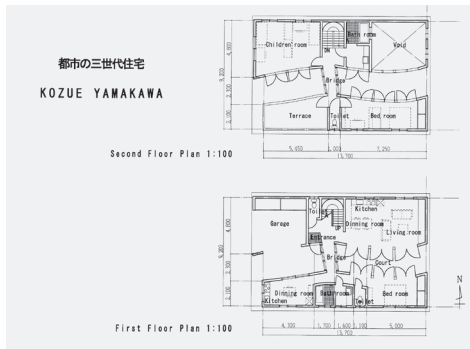
【図47：1999年度作品】「Chain/unchain Ring City Project」。春日部市内の大規模集合住宅のリニューアル計画。エスキスと同時進行でCADを用いた最初の作品。



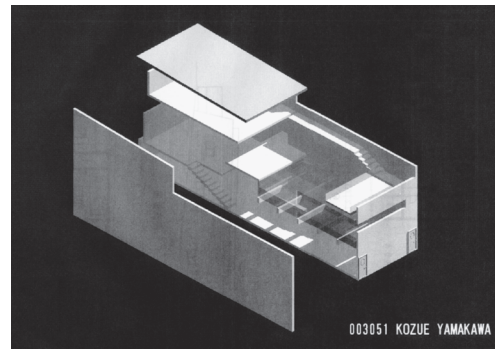
【図50：2001年度椅子のデザイン作品】「seesaw chair」CADの独自課題。Vector Worksによる3D操作の導入課題。



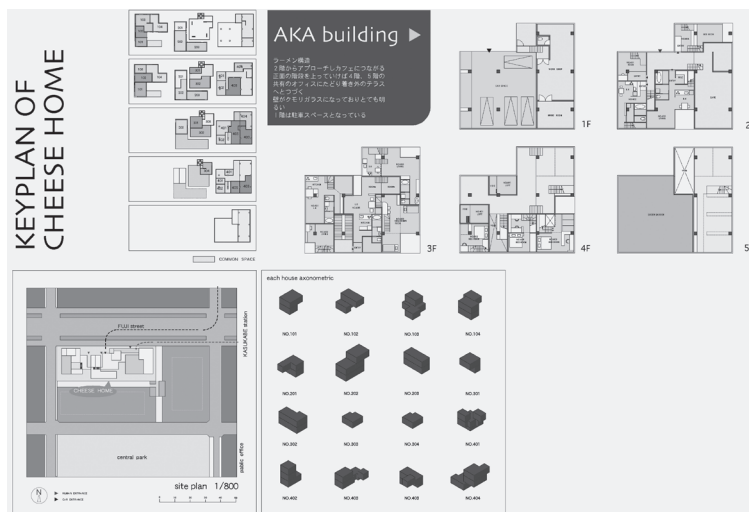
【図51：2001年度作品】タイトル不詳。インテリアルート設計製図Ⅱ作品「小住宅」のVector Worksによる3D入力。



【図 52：2001 年度作品】建築ルート設計製図Ⅱ「都市の3世代住宅」作品のDRA-CADによる2D入力。



【図 53：2001 年度作品】建築ルート設計製図Ⅱ「理想住宅」作品のDRA-CADによる3D入力。



【図 54：2002 年度作品】建築ルート設計製図Ⅲ「集合住宅」作品のDRA-CADによる2D／3D設計とプレゼンテーション。

当時あえてDRA-CADとVector Worksという2種類ものCADを揃えたのは、DRA-CADがいわゆるライン指向CADであるのに対して、Vector Worksがオブジェクト指向CADの代表格であることを鑑みて、この二つのタイプのCADに触れていれば就職先でも応用が利くであろうという判断であった。2年次にはDRA-CADかVector Worksを選択して履修することになっていた(図46～53)。2001年度には1年生向けの後期必修科目として「基礎CAD」(DRA-CAD)が設置され、前期の建築コンピュータリテラシーとあわせれば2年間を通じたコンピュータおよびCADの教育環境が整った。これが奏効し、2002年度のCAD作品集は技術的にもプレゼンテーション的にも進化が見られる(図54)。

DRA-CADとVector Worksの併用は2003年にAuto-CADが導入されるまで続いた。現在は1年次の基礎CAD(必修)がAuto-CADによる図面のトレース、2年次のCAD科目(選択)がVector Worksで、3Dの家具等の入力操作・自分自身の設計製図作品のCAD入力(2Dおよび3D)である。2002年度のCAD作品集が2ルート制最後のCAD作品集となり、以後はCAD作品も設計製図作品集の中に吸収されている。

4 住居学科3ルート制(2002年度カリキュラム改訂-2005)

4-1カリキュラム改訂の背景

1994年の改組以来、建築ルート+インテリアルートの2ルート制で専門化と多様化に対応できるカリキュラム構成とし、1998年までの前半期はその目的通りに教育成果が出ていた。しかし、後半期に2つのルートのバランスが崩れてからは両極化が激しく進行して、共通基盤にあるはずの「住居」が空洞化してしまい、両ルートの接点がうまくつくれなくなってしまっていたように思う。この現象はいわゆる学生数の減少や質の変化と表裏の関係にあった。ちょうど入学者数が現象を始めた1998年が2ルート期の分岐点になっていたのである。

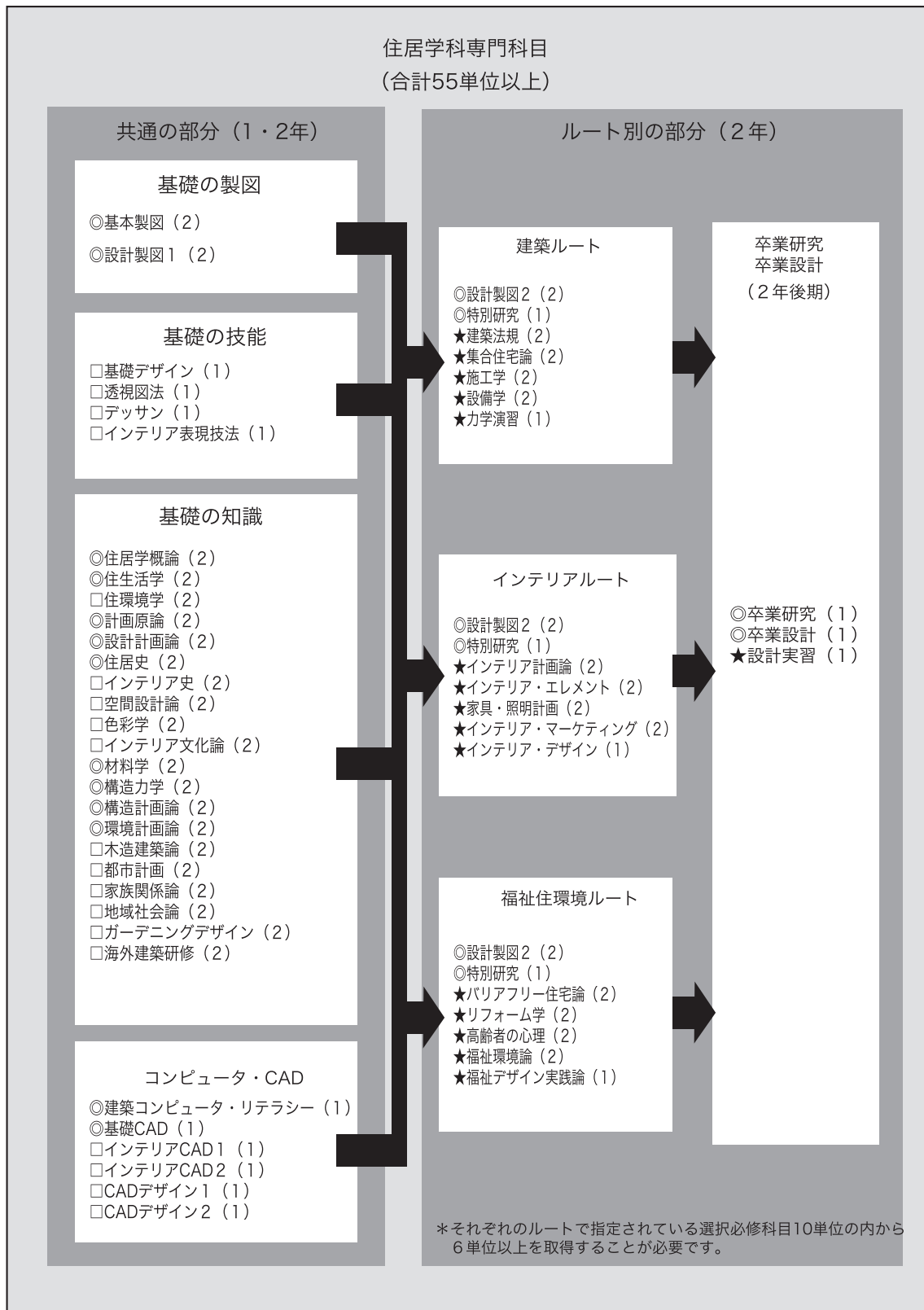
住居学科の入学者にはルートを問わず住宅に関わる仕事を希望する学生が多い。そこでもう一度原点に還って「住居学」を中心に据えた学科のコンセプト作りが必要であると考えられた。また、短大全体としても社会福祉学科と住居学科の2学科で構成されているメリットをどのように各学科の教育内容に反映させ、特色を作り出すのかということが大きな課題となっていた時期でもある。

住居学科で「住居」を基盤においたより強力な教育コンセプトを模索していた時期に、賛否両論の中で介護保険制度の2000年施行がほぼ確定となり、今後の福祉政策が在宅介護を中心とする方向へ転換していくということが明確になった。1999年の福祉住環境コーディネーター3級検定の創設時には、住居学科専任教員・非常勤講師など4名でこれを受験し、住居学科と社会福祉学科が併設されている共栄短大にとって教育コンセプトに関わる大きな方向性になりうるという議論の中から、住居学科では3つめの「福祉住環境ルート」が生まれてきたのである。

社会福祉学科の先生方にもご理解ご協力をいただき、「福祉と住環境」を両学科の教員のオムニバスで実施する基礎教養科目として開設したのが2001年であった。翌2002年の基礎教養課程の改訂があって基礎教養の卒業要件が11単位から7単位となり、専門科目の卒業要件が51単位から55単位へと増加したのを契機として、福祉住環境ルートの選択必修科目を設置、設計製図もルート毎に独立させ、現在の3ルート制の基盤をつくることができた。

4-2 福祉住環境ルートの意義

福祉住環境ルートの設置は2002年だが、実質的には入学者が2年生となる2003年が最初の運営年であり、まだ3年目であるので設置効果の議論は難しい。実際問題、福祉住環境ルートに進む学生はまだ1割~2割というところで、高齢者・障害者の問題に深い関心を抱く若い学生たちがまだまだ少ないことは否めない。

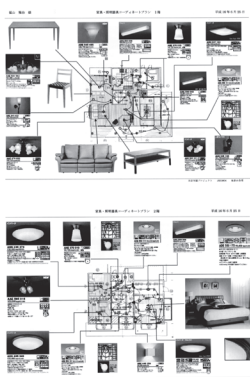


【図 55 : 2004 年度キャンパスガイドより 3 ルート制のカリキュラム構成図】

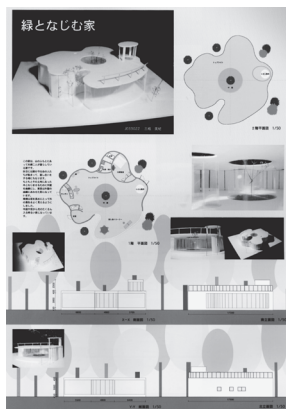
3 ルート制は、基本的には従来の 2 ルート制に福祉住環境ルートを加えたもので、それぞれのルートの選択必修科目が 10 単位分設定され、その内から 6 単位以上を履修すれば卒業要件を満たすことができる。ただし、実際の運営としては他ルートの選択必修科目も履修できるように各ルートの選択必修科目ができる限り時間割上重ならないようにしている。



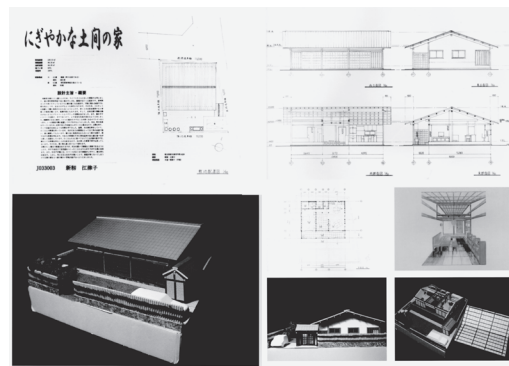
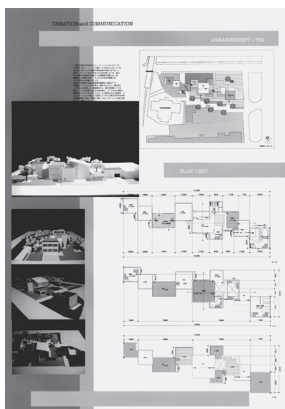
【図 56：2004 年作品集】
第 19 期生卒業設計および 20 期生の卒業設計以外の作品を収録。



【図 57：2004 年作品集】 インテリアルート設計製図Ⅱ「山川邸改修計画」作品。照明器具・家具等の設置のプレゼンテーションボードを制作する等、インテリア・コーディネーションに向けた独白色が出ている。



【図 58（上）、図 59（右上）：2004 年作品集】
建築ルート設計製図Ⅱ「理想住宅」、「美術館」作品。設計製図と CAD が一体化している。



【図 60：2004 年作品集】
福祉住環境ルート設計製図Ⅱ。バリアフリー住宅を念頭に置いた丁寧な住宅設計の密度が高い。

一方で、直接の連関を証明することは難しいが、福祉住環境ルートを設置した 2002 年度から入学者数が徐々に回復し始め、2 ルート制の 9 年間に 1 人しかいなかった社会人入学者が 3 ルート制になってからわずか 3 年の間に 3 名を数えるようになったことは注目に値する。入試願書の志望動機に「バリアフリー住宅」や「高齢化社会」「福祉住環境コーディネーター」といった用語が散見されるようになり、2005 年度入学志望動機をみると入学者の約 3 割の学生たちが福祉住環境コースに関連する用語をあげている。授業運営面では、住宅の問題を中心に据えて研究・学習したいという学生たちのニーズを福祉住環境ルートの設計製図と卒業研究の組み合わせで受け止められるようになってきている（図 56～60）。第 20 期生の設計製図Ⅱの各ルート作品には、それぞれのルートの特色が早くも明確に出てきており、福祉住環境ルートは「住宅を基盤にきめ細かく課題に取り組む」ルートとして浸透しつつある。

特に住居学科にとって重要なのは、福祉住環境ルートの設置によって住居学科がめざす地域に密着した住宅の専門家を養成する、というコンセプトがより明快になってきたとい

う点である。バリアフリー化やリフォームの相談から防災上の安全性チェック、家具コーディネートから新築まで、地域の人々の生活に住環境の側面から貢献できる人材の養成は、現在の社会情勢・建設業界のあり方からみても急務である。来年度からは福祉住環境実習室（仮称）の開設も予定されており、住居学科の基幹を担うコースとして定着していくと予測している。

4-3 2002年度カリキュラム改訂補足：通年科目の半期化と必修科目の削減

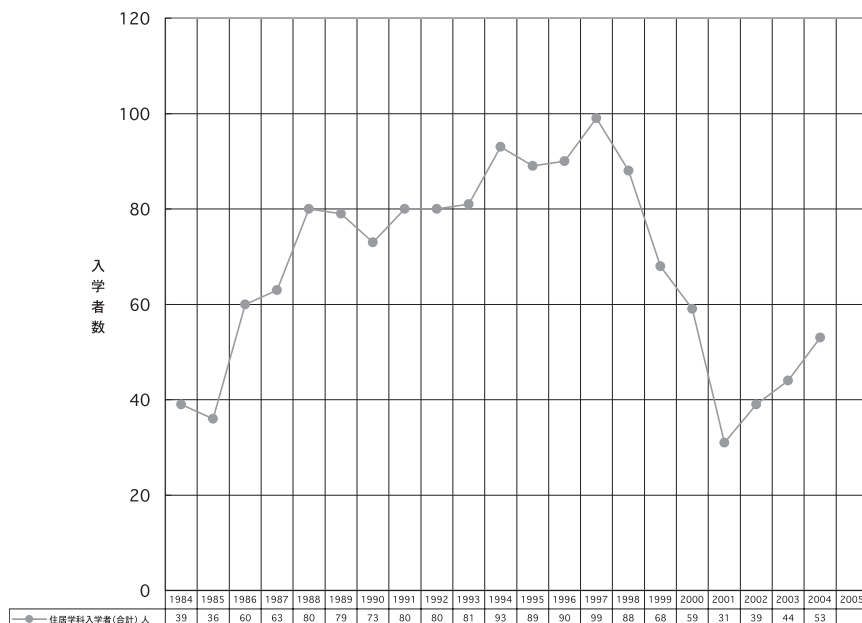
福祉住環境ルートを設置する一方で、カリキュラム上の大きな変化として、学生の質の変化に対応するため、それまでの通年科目をすべて半期に分け（2001年）、よりきめの細かい対応ができるようにしたこと、必修科目の一部を選択科目へと変更し必修科目を28単位から22単位までに削減した（2002年）ことがあげられる。

半期化は各科目の目的と内容、学習目標などをより明確にしていく上で成果があったが、一方で必修科目の削減はかえって学生たちの学習意欲を削ぎ、出席率の低下や授業効率の低下などの結果を導き、2004年度にはふたたび29単位まで必修科目を戻している。

5 住居学科データ抜粋

5-1 入学者数の動向

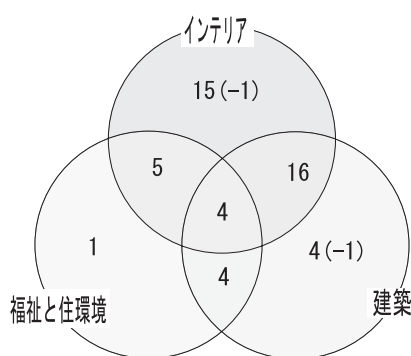
【図61：住居学専攻+住居学科の入学者数の推移】



開学より現在までの生活系学科・住居学専攻及び住居学科の入学者数の推移を示した。生活学科・住居学専攻期の入学者数を徐々に増やし80名前後で安定している。住居学科

入学者数は、1994年の改組以降徐々に増加しつつ1997年の99名をピークとして減少に転じる。改組から1997年の入学者が2年次を迎える1998年までが2ルート制の前半期にあたり、臨時定員の枠が縮小していくのと並行して入学者数が減少していき2001年に31名まで一気に落ち込む。この時の入学者が2ルート制の最終学年であり、1999年から2002年までが2ルート制後半期になる。福祉住環境ルートを設置した2002以後毎年徐々に入学者数を回復し、ついに2004年度入学者数が53名、つまり定員を超えるまでに回復した。これが住居学科3ルート制期にあたる。

5-2 入学志望動機



【図 62：住居学科入学者の志望動機】

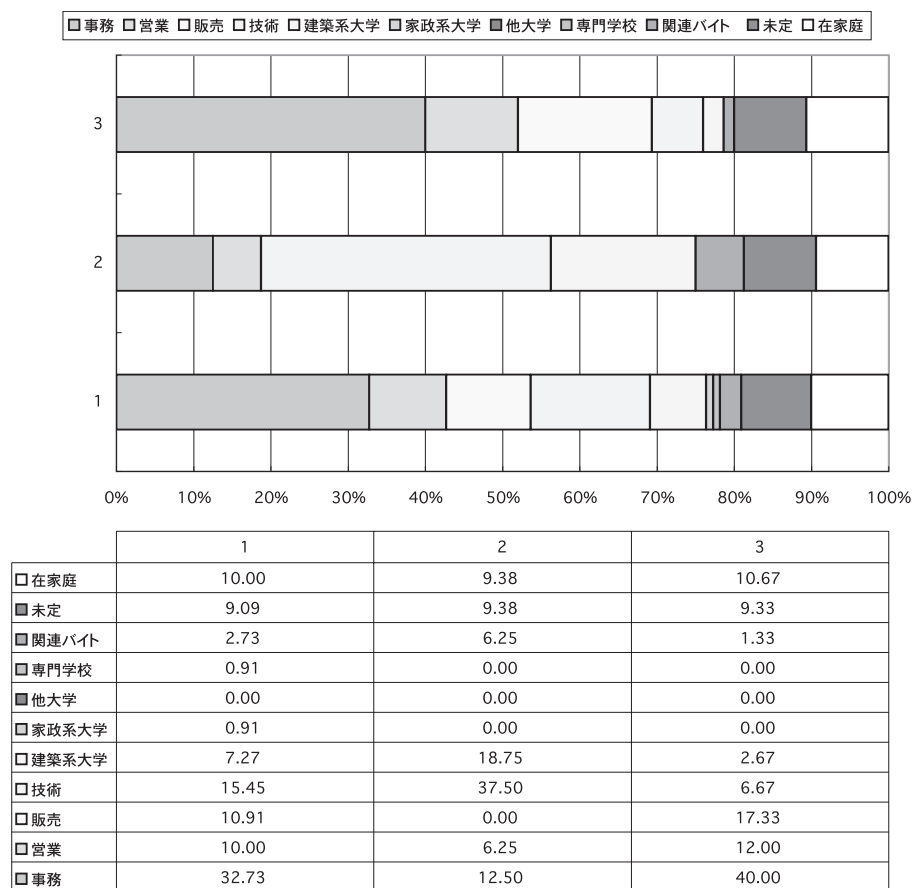
2005年度住居学科入学予定者の志望動機について、エントリーの際の自己紹介文からまとめた。インテリア分野への関心のある学生が圧倒的に多く39名と8割を占め、建築27名(5割)、福祉と住環境14名(3割)と続く。

一方、関心分野が単独分野に限定されている者は、インテリア14名、建築3名、福祉と住環境1名と合計で4割に満たず、むしろ6割強の学生が複数分野への関心を示している。また、「(短大唯一の)住居学科だから、住宅/住環境に関心がある」16名、「3ルート制で幅広く勉強できるから」15名と3割程度、両者を合わせると26名が住宅関連の分野として注目していることがわかる。商業建築(ショップインテリア)志向の強い専門学校とは異なった傾向だと言えるのではないだろうか。住宅を中心に据えてインテリア・福祉・建築の幅広い教育を希望している者が5割強になるというのは住居学科を志望する学生たちのひとつの特色となっている。

また、関連の資格として興味を持っているのが、インテリア・コーディネーター31名、インテリアプランナー4名、福祉住環境コーディネーター7名、(2級)建築士20名となっており、複数資格に関心を持つ者も多い。その他に関心を持っていること、期待していることとして「絵を描くことやデザインが好き/充実した実習が楽しみ」など、デザイン教育への期待が15名と3割いる。「CAD」についても9名と2割、リフォームが4名と1割程度になっている。

5-3 進路

【図 63：住居学科卒業生の職種別就職先 2001 年～2003 年】



凡例
 1：住居学科全体の職種別就職先
 2：建築ルート学生の職種別就職先
 3：インテリアルート学生の職種別就職先

注：12月に編集する卒業生名簿による集計なので、最終就職状況ではなく、一部の学生を未定のまま含んだデータである。

1) 就職

住居学科卒業生の2001～2003年までの就職状況をまとめて示す。(図 64) 全体で見ると卒業生の約3割は事務職、技術職は1.5割程度である。ルート別に見るとインテリアルート(2003年分には福祉住環境ルートの学生も含まれている)は事務職が最も多く39.0%、次いで販売16.9%、営業11.7%という構成になっている。これに対して建築ルートでは技術職が最も多く37.5%、次いで建築系大学への進学が18.8%、事務職が12.5%と、大きく就職傾向が異なっている。

2) 編入学

住居学科卒業生の編入学先は、大きく3つに分かれる。最も多いのは理工系学部の建築学科、家政系(または生活系)学部または学科、そして美術系大学の建築学科である。その他、異分野の学部学科への進学者(1名)、専門学校などが進学先となっている。2ルート制前半期までは、専門学校でも総合的な教育体系を持つ学校を選ぶ傾向があったが、ここ数年はCAD技能に特化した専門学校などへの進学者が若干名いる。近年は家政系大学

への進学者が減少傾向にあり、建築系・または美術系大学への編入が大きな割合を占めるようになってきている。

6 結び

満20歳を迎えた住居学科の成長の記録を大まかに追うと

- 1) 生活学科時代…家政学の基盤の上に住居学
 - 2) 2ルート制時代…前半期：専門化と多様化、後半期：二極化と「住居」の空洞化
 - 3) 3ルート制時代…「住居」を基幹に据えたコンセプトの立て直し
- という3期に区分されるといえるだろう。

2006年度から新たに履修モデルコース制を敷き、第4期を迎えることになるが、日本の社会構造や建設産業構造の変化や、地域密着型で地域の住宅を支えてきた工務店・職人組織の衰退といった時代にあって、地域の住環境の質を上げていくために社会に貢献する人材の育成という住居学科の基本コンセプトは今後ますます重要になってくると思われる。

今回この稿をまとめるにあたって2005年度岡野研究助成を受けて進められている卒業生動向調査が大きな刺激となった。この調査に関する報告は『短期大学における専門教育プログラムの課題抽出』（小林文香、共栄学園短期大学紀要22号収録予定）に見ることができる。

最後に、カリキュラムの変遷を追うための基礎資料のご提供をいただいた教務課、就職先動向の基礎資料をいただいた就職指導室、入学志望動機分析の基礎資料をいただいた入試課など、多くの職員の方々のご協力に感謝いたします。

【本文註】

- 1 『共栄学園短期大学住居学科データ集 2004 年度版』 2005 年 3 月 24 日 六反田千恵、小林文香（学科内資料）
- 2 『2005 年度住居学科カリキュラム改訂に関するレポート』 2005 年 3 月 24 日 樋口眞基子、六反田千恵、小林文香（学科内資料）
- 3 【住居学科設計製図作品集一覧】 参照
- 4 【住居学科 CAD 作品集一覧】 参照
- 5 【住居学科パンフレット各種一覧】 参照
- 6 『2020 年の家』 1995 年度実施、企画・主催：日本女子大学有志、審査員：妹島和世、共栄学園短期大学より 9 名応募。うち 1 名優秀賞、2 名佳作入選した。
- 7 「第 2 回建築アンデパンダン展」 1996 年 10 月 27 日～11 月 10 日、京都・西陣北座にて開催。主催：建築アンデパンダン展実行委員会、共栄学園短期大学からの出品者 4 名
- 8 「住まいの達人コンテスト」 1996 年度、主催：住宅月間実行委員会、審査員：山本理顕、高橋公子ほか。共栄学園短期大学より応募者 1 名、建設大臣賞 1 名。

【住居学科設計製図作品集一覧】

- 『自然の中に建つ家 1988 年度 1 年生』
 …担当教員：曾根陽子。第 5 期生の住居設計製図 I 作品を収録。
- 『余暇を過ごす家 共栄学園短期大学住居学専攻 1990 年度 1 年生作品集』
 …担当教員：板井宝一郎、川嶋幸江、寒竹伸一、曾根陽子、樋口眞基子。第 7 期生の住居設計製図 I 作品を収録。
- 『1993 年度卒業設計優秀作品集』 1994 年
 …担当教員・編集：白井裕泰。第 9 期生の卒業設計作品を収録。
- 『共栄学園短期大学住居学科優秀作品集 1994 年度』 1996 年 3 月 編集：六反田千恵
 …1994 年度（1994 年 4 月～1995 年 3 月）の作品を編集に 1 年をかけて翌年 1996 年の発行となった。第 10 期生の設計製図 II と卒業設計作品を収録している。生活学科最後の学年の作品集である。
- 『共栄学園短期大学住居学科優秀作品集 1996 年』 1997 年 3 月 編集：六反田千恵
 …1994 年度版の発行が見かけ上 2 年遅れるのは好ましくないのので、この号からタイトルから「年度」を取り 1996 年 3 月までの作品集という意味で 1996 年版として。以下、97 年と 98 年版までは同じ考え方でタイトルを付けている。第 11 期生（住居学科第 1 期生）の設計製図 II 作品、学外コンペ出品作品、卒業設計を収録している。
- 『共栄学園短期大学住居学科優秀作品集 1997 年』 1998 年 3 月 編集：今野記代子
 …第 12 期生の設計製図 II、学外コンペ出品作品、設計製図 III、卒業設計作品を収録。
- 『共栄学園短期大学住居学科優秀作品集 1998 年』 1999 年 3 月 編集：畠沢静江
 …第 13 期生の設計製図 II、学外コンペ出品作品、設計製図 III、卒業設計作品を収録。
- 『2000 年度共栄学園短期大学住居学科 設計課題・演習科目作品集』 2001 年 3 月 編集：照井勇
 …第 15 期生の卒業設計と第 16 期生の卒業設計を除く 1・2 年次の実習演習科目を収録。従来通りであれば第 14 期生と第 15 期生の合併号になるはずであったがこの号から、編集方針を変更し、卒業設計を翌年の作品集に送ることで編集時期を早めた。また、1 年次の基礎デザインやデッサン等の成果品も収録するようにして作品集に幅を持たせている。表紙デザイン：藤中理恵・中島玲子
- 『2001 年度共栄学園短期大学住居学科 設計課題・演習科目作品集』 2002 年 3 月 編集：照井勇
 …第 16 期生卒業設計と第 17 期生実習演習科目作品を収録。表紙デザイン：藤中理恵・中島玲子
- 『2002 年度共栄学園短期大学住居学科 設計課題・演習科目作品集』 2003 年 3 月 編集：照井勇

- …第17期生卒業設計と第18期生実習演習科目作品を収録。表紙デザイン：長岡美紗
『2003 共栄学園短期大学住居学科』2004年3月 編集：入江徹
…第18期生卒業設計と第19期生実習演習科目作品・CAD作品を収録。この号より、
CAD関連作品も併せて収録するようになった。建築ルートの設計製図は内容的にCAD
関連授業とセットになったために、特に分けて編集する意味が無くなったのである。
『2004年度共栄学園短期大学住居学科作品集』2005年3月 編集：小林文香
…第19期生卒業設計と第20期生実習演習科目作品・CAD作品を収録。

【住居学科 CAD 作品集一覧】

- 『共栄学園短期大学住居学科コンピューター・デザイン優秀作品集1998』1999年3月
編集：六反田千恵
…第14期生CAD作品を収録。14期生の設計製図作品は作品集がつくられていないの
で、このCAD作品でしか見ることができない。
『共栄学園短期大学住居学科コンピューター・デザイン優秀作品集1999』2000年3月
編集：六反田千恵
…第15期生CAD作品を収録。はじめてVector Worksを実験的に用いて、CADによ
るプレゼンテーションの実験を始めている。15期生の卒業設計を除く設計製図課題は
やはり作品集には収録されておらず、ここでしか見ることができない。
『共栄学園短期大学住居学科コンピューター・デザイン作品集2000』2001年3月 編集：
六反田千恵
…第16期生CAD作品を収録。
『共栄学園短期大学住居学科コンピューター・デザイン作品集2001』2002年3月 編集：
六反田千恵
…第17期生CAD作品を収録。
『共栄学園短期大学住居学科コンピューター・デザイン作品集2002』2003年3月 編集：
六反田千恵
…第18期生CAD作品を収録。
*ただし、1997年度CAD作品集は学科に在庫がなく、詳細が確認できなかった。

【住居学科パンフレット各種一覧】

- 『KYOEI GAKUEN JUNIOR COLLEGE HOUSING STUDIES DEPARTMENT』共栄学
園短期大学住居学科編 1998年頃作成、改訂を繰り返しながら2、3年間使用
『共栄学園短期大学住居学科 インテリアルート、建築ルート、福祉住環境ルート』2002
年編共栄学園短期大学住居学科編
『住居学科卒業生の活躍と就職状況 OB&OG MESSAGE』短大学校案内パンフレットよ
り抜粋 2003年編
『共栄学園短期大学・住居学科 建築・インテリア・福祉住環境』2004年共栄学園短期大
学住居学科編
ただし、カラーコピーで学科説明を行っていた時期のパンフレットは除く。

1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006
△講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2
住居管理論												
△講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	廃止				
△講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2
1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006

凡例：

- …必修科目
- ◎…選択必修科目
- △…選択科目

講…講義科目

演…演習科目

実…実習科目

*末尾の数字は単位数を示す

例 ●講 2…必修講義科目 2 単位

△演 1…選択演習科目 1 単位

→…継続

||…名称、必修・選択の指定など
なんらかの変更があることを示す

【参考資料：生活学科住居学専攻・住居学科カリキュラム変遷その2 住居学基幹科目一覧】

年度	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993		
住居学専攻 住居学科 基幹科目	住生活学											
	●講4 → ●講4 → ●講4 → ●講4 → ●講4 → ●講4 → ●講4 → ●講4 → ●講4 → ●講4 →											
	住居史											
	●講2 → ●講2 → ●講2 → ●講2 → ●講2 → ●講2 → ●講2 → ●講2 → ●講2 → ●講2 →											
	一般構造											
	△講2 → △講2 → ●講2 → ●講2 → ●講2 → ●講2 → ●講2 → ●講2 → ●講2 → ●講2 →											
	環境衛生学											
	△講2 → △講2 → ●講2 → ●講2 → ●講2 → ●講2 → ●講2 → ●講2 → ●講2 → ●講2 →											
	住居設計計画論											
	●講4 → ●講4 → ●講4 → ●講4 → ●講4 → ●講4 → ●講4 → ●講4 → ●講4 → ●講4 →											
ゼミ科目	色彩学											
	△講2 → ●講2 → ●講2 → ●講2 → ●講2 → ●講2 → ●講2 → ●講2 → ●講2 → ●講2 →											
	材料学											
	△講2 → △講2 → △講2 → △講2 → △講2 → △講2 → △講2 → △講2 → △講2 → △講2 →											
	設計製図	住居設計製図1										
		●実2 → ●実2 → ●実2 → ●実2 → ●実2 → ●実2 → ●実2 → ●実2 → ●実2 → ●実2 →										
		住居設計製図2										
		●実2 → ●実2 → ●実2 → ●実2 → ●実2 → ●実2 → ●実2 → ●実2 → ●実2 → ●実2 →										
	基礎技能	住居設計製図3										
		●実2 → ●実2 → ●実2 → ●実2 → ●実2 → ●実2 → ●実2 → ●実2 → ●実2 → ●実2 →										
デッサン実習												
△実2 → △実2 → △実2 → △実2 → △実2 → △実2 → △実2 → △実2 → △実2 → △実2 →												
工芸実習1 工芸実習												
△実2 → △実2 → △実2 → △実2 → △実2 → △実2 → △実2 → △実2 → △実2 → △実2 →												
工芸実習2												
△実2 廃止												
基礎意匠学												
●演2 → ●演2 → ●演2 → ●演2 → ●演2 → ●演2 → ●演2 → ●演2 → ●演2 → ●演2 →												
年度	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993		

1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006
●講4	→ ●講4	→ ●講4	→ ●講4	→ ●講4	→ ●講4	→ ●講4	→ ●講4	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ ●講2	→ ●講2
							住居環境学					
							△講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2
住居史1		住居史					日本住居史					住居史
●講2	→ ●講2	→ ●講4	→ ●講4	→ ●講4	→ ●講4	→ ●講4	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ ●講2	→ ●講2	→ △講2
住居史2							西洋住居史					
△講2	→ △講2						△講2	→ △講2	→ △講2			
構造計画論1							構造力学					
●講2	→ ●講2	→ ●講2	→ ●講2	→ ●講2	→ ●講2	→ ●講2	→ ●講2	→ ●講2	→ ●講2	→ ●講2	→ ●講2	→ ●講2
							力学演習					
							△講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ ★講2	→ 廃止
環境計画論												
●講2	→ ●講2	→ ●講2	→ ●講2	→ ●講2	→ ●講2	→ ●講2	→ ●講2	→ ●講2	→ ●講2	→ ●講2	→ ●講2	→ ●講2
設計計画論							設計計画論					
●講4	→ ●講4	→ ●講4	→ ●講4	→ ●講4	→ ●講4	→ ●講4	→ ●講2	→ ●講2	→ ●講2	→ ●講2	→ ●講2	→ ●講2
							計画原論					
							●講2	→ ●講2	→ ●講2	→ ●講2	→ ●講2	→ ●講2
●講2	→ ●講2	→ ●講2	→ ●講2	→ ●講2	→ ●講2	→ ●講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2
△講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ ●講2	→ ●講2	→ △講2
			木造建築論									
			△講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2
			海外研修									
			△実2	→ △実2	→ △実2	→ △実2	→ △実2	→ △実2	→ △実2	→ △実2	→ △実2	→ △実2
特別研究							特別研究1	特別研究				
●演2	→ ●演2	→ ●演2	→ ●演2	→ ●演2	→ ●演2	→ ●演2	→ ●演1	→ ●演1	→ ●演1	→ ●演1	→ ●演1	→ ●演1
							特別研究2	卒業研究				
							●演1	→ ●演1	→ ●演1	→ ●演1	→ ●演1	→ ●演1
			住居学概論									住居学概論1
			△講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ ●講2	→ ●講2	→ ●講2	→ ●講2	→ ●講2	→ ●講2
												住居学概論2
												●講2
設計製図1							基本製図					
●実2	→ ●実2	→ ●実2	→ ●実2	→ ●実2	→ ●実2	→ ●実2	→ ●実1	→ ●実2	→ ●実2	→ ●実2	→ ●実2	→ ●実2
							設計製図1					
							●実1	→ ●実2	→ ●実2	→ ●実2	→ ●実2	→ ●実2
設計製図2												
●実2	→ ●実2	→ ●実2	→ ●実2	→ ●実2	→ ●実2	→ ●実2	→ ●実2	→ ●実2	→ ●実2	→ ●実2	→ ●実2	→ ●実2
設計製図3												
●実2	→ ●実2	→ ●実2	→ ●実2	→ ●実2	→ ●実2	→ ●実2	→ ●実2	→ ▲実1	→ ▲実1	→ ●実1	→ ●実1	→ ●実1
							卒業設計					
							設計実習					
							▲実1	→ ▲実1	→ ▲実1	→ ▲実1	→ ▲実1	→ 廃止
造形実習							造形実習					
△実2	→ △実2	→ △実2	→ △実2	→ △実2	→ △実2	→ △実2	→ △実1	→ △実1	→ △実1	→ △実1	→ △実1	→ 廃止
							デッサン					
							△実1	→ △実1	→ △実1			
基礎デザイン1				基礎デザイン								
●演2	→ ●演2	→ ●演2	→ ●演2	→ ●演1	→ ●演1	→ ●演1	→ △演1	→ △演1	→ △演1	→ △演1	→ △演1	→ △演1
基礎デザイン2				透視図法								
■演1	→ ■演1	→ ■演2	→ ■演1	→ ●演1	→ ●演1	→ ●演1	→ △演1	→ △演1	→ △演1	→ △演1	→ △演1	→ △演1
1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006

凡例については、カリキュラム変遷1に従う

【参考資料：生活学科住居学専攻・住居学科カリキュラム変遷その3 住居学分野別科目＋CAD科目一覧】

年度	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	
建築系	施工学 △講2 → ●講2 → ●講2 → ●講2 → ●講2 → ●講2 → ●講2 → ●講2 → ●講2 →										
	設計作業計画論 △講2 → △講2 →					設計方法論 △講2 → △講2 → △講2 → △講2 → △講2 →					
								建築法規 △講2 → △講2 → △講2 → △講2 →			
									建築設備 △講2 → △講2 → △講2 →		
インテリア系	室内装飾 ●演2 → ●演2 → ●演2 → ●演2 → ●演2 → ●演2 → ●演2 → ●演2 → ●演2 → ●演2 →										
	室内意匠学 ●演2										
福祉住環境系											
都市・環境系	集合住宅論 △講2 → △講2 → △講2 → △講2 → △講2 → △講2 → △講2 → △講2 →										
								都市計画 △講2 → △講2 → △講2 →			
コンピュータ・CAD系									設計図書演習 △演1 → △演1 → △演1 →		
年度	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	

1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006
★講2	→ ★講2	→ ★講2	→ ★講2	→ ★講2	→ ★講2	→ ★講2	→ ★講2	→ ★講2	→ ★講2	→ ★講2	→ ★講2	→ ●講2
空間設計論												
△講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ ★講2
△講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ ★講2	→ ★講2	→ ★講2	→ ★講2	→ ●講2
設備学												
△講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ ★講2	→ ★講2	→ ★講2	→ ★講2	→ △講2
構造計画論2												
★講2	→ ★講2	→ ★講2	→ ★講2	→ ★講2	→ ★講2	→ ★講2	→ ★講2	→ ●講2	→ ●講2	→ ●講2	→ ●講2	→ ●講2
構造演習												
								△演1	→ △演1	→ △演1		
インテリア史												
△講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ ●講2	→ ●講2	→ ●講2	→ △講2	→ △講2
インテリアエレメント												
△講4	→ △講4	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ ●講2	→ ●講2	→ ●講2	→ ●講2	→ ●講2
インテリア計画論												
■講4	→ ■講4	→ ■講4	→ ■講4	→ ■講4	→ ■講4	→ ■講4	→ ■講4	→ ■講2	→ ■講2	→ ■講2	→ ■講2	→ ■講2
インテリア文化論												
								■講2	→ ■講2	→ ■講2	→ ■講2	→ △講2
インテリアデザイン												
							■演1	→ ■演1	→ ■演1	→ ■演1	→ ■演1	→ ■演1
インテリアデザイン技法												
								△演1	→ △演1	→ △演1	→ △演1	→ △演1
インテリアプレゼンテーション技法												
								△演1	→ △演1	→ △演1	→ △演1	→ △演1
インテリアプレゼンテーション技法												
								■講2	→ ■講2	→ ■講2	→ ■講2	→ ■講2
インテリア設備学												
インテリアマーケティング												
								■講2	→ ■講2	→ ■講2	→ ■講2	→ ■講2
インテリア材料学												
ICゼミ												
■演1												
IC製図ゼミ												
■演1												
バリアフリー住宅論												
								◎講2	→ ◎講2	→ ◎講2	→ ◎講2	→ ◎講2
リフォーム学												
								◎講2	→ ◎講2	→ ◎講2	→ ◎講2	→ ◎講2
高齢者の心理												
								◎講2	→ ◎講2	→ ◎講2	→ ◎講2	→ ◎講2
福祉環境論												
								◎講2	→ ◎講2	→ ◎講2	→ ◎講2	→ ◎講2
福祉デザイン実践論												
								△演1	→ △演1	→ △演1	→ △演1	→ △演1
福祉環境整備演習												
FJCゼミ												
◎演1												
△講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ △講2	→ ★講2	→ ★講2	→ ★講2	→ ★講2	→ ★講2
環境デザイン論												
△演1	→ △演1	→ △演1	→ △演1	→ △演1	→ △演1	→ △演1	→ △演1	→ △演1	→ △演1	→ △演1	→ △演1	→ △演1
ガーデニング ガーデンデザイン												
								△演1	→ △演1	→ △演1	→ △演1	→ △演1
MRMゼミ												
★演1												
MRM製図ゼミ												
★演1												
不動産法規												
★講2												
コンピュータデザイン1												
★演1	→ ★演1	→ ★演2	→ ●演1	→ ●演1	→ ●演1	→ ●演1	→ ●演1	→ △演1	→ △演1	→ △演1	→ △演1	→ △演1
コンピュータデザイン2												
							★演1	→ ★演1	→ ★演1	→ ★演1	→ △演1	→ △演1
CADデザイン1												
								△演1	→ △演1	→ △演1	→ △演1	→ △演1
CADデザイン2												
								△演1	→ △演1	→ △演1	→ △演1	→ △演1
インテリアCAD1												
								△演1	→ △演1	→ △演1	→ △演1	→ △演1
インテリアCAD2												
								△演1	→ △演1	→ △演1	→ △演1	→ △演1
基礎CAD												
								●演1	→ ●演1	→ ●演1	→ ●演1	→ ●演1
建築コンピュータリテラシー												
								●演1	→ ●演1	→ ●演1	→ ●演1	→ ●演1
基礎教養科目へ												

凡例については、カリキュラム変遷1に従う